蔵書点検のため休館します
期間：6月9日（月）～16日（月）

NPO法人越後妻有里山協働機構
マユビトづくりワークショップ
5月17日（土） ※詳細は本紙４面参照

“蚕起食桑（かいこおきてくわをはむ）”～カイコと繭のはなし～

木々の緑が次第に深まる5月21日から25日ころは、二十四節気のうち「小満」（5月21日から6月4日ころ、大切な作物が実り始めるのでほっとひと安心する「小さな満足」という意味）の初候、七十二候の第二十二候にあたります。この時期は、昔から「蚕起食桑（蚕起きて桑を食う）」と呼ばれていました。カイコが桑を盛んに食べ始める、という意味です。

カイコ（蚕、学名：Bombyx mori）は、チョウ目（鱗翅目）カイコガ科に属するガの一種です。もともと日本や中国の山野に生息していたクワコ（桑蚕）という野生の蛾を、数千年かけて人間が飼いならし、品種改良を重ねてつくりあげた昆虫の家畜です。

カイコのエサとなるのが、桑の葉です。たくさんの葉が必要なため、養蚕農家は桑の栽培とカイコの飼育という二つの作業を行っていました（現在では人工飼料を併用して育てることもあります）。桑の葉は新鮮で、かつ無農薬である必要があります。葉を食べて育った幼虫は、糸を分泌して繭をつくり、そのなかで蛹（さなぎ）となるのです。

幼虫は4回の脱皮を繰り返して成長します。卵からかえりたての幼虫を1齢（ふ化から3日目程度）と呼び、脱皮をするたびに2齢（5～6日目）、3齢（8～10日目）、4齢（12～15日目）、5齢（18～25日目）と大きくなります。特に食欲旺盛な5齢では、朝晩休みなしに約1週間、桑の葉を食べ続けます。カイコが一斉に食べる音は「蚕時雨（かいこしぐれ）」と呼ばれ、まるで小雨が静かに降っているかのようにサーっ、と心地よく響きます。生れたてには3mm程度だったカイコは、25日あまりで大きさ7cm、体重は約1万倍にもなります。このころにはあまり葉を食べなくなり、繭を作る準備を始めます。さらに2日ほど経つと、生まれてから約1か月間大切に育てられたカイコは美しい繭を完成させるのです。

このカイコがつくる繭からとれた生糸（絹）が、明治以来の日本の近代化を支えてきました。1922（大正11）年、日本の総輸出額の48.9%を生糸・絹織物が占め、1930（昭和5）年の繭生産量は39.9万トンの史上最高を記録しました。現金化しやすい養蚕は農家の貴重な収入源で、昭和初期には農家の約40%に当たる221万戸が携わっていました。当時は県内でも91%の自治体で養蚕が行われ、1933（同8）年には6586トンの産繭量を記録しています。しかし、戦争で輸出先が減り、さらにレーヨンやナイロンなどの化学繊維が普及すると需要が減ります。戦後の昭和30～40年代には和服人気の高まりで一度は盛り返しますが、50年代後半にはますます減少していきました。

一方で、現在では絹の新たな利用開発も進められています。品種交配や遺伝子組換え技術により、超極細で少ない染料で染色できるシルク、糸そのものが緑・赤・オレンジ色などに発色する蛍光シルクなども生産されています。医薬品や医療用素材、化粧品、電子部品などの新分野での活用も期待されています。2015年、十日町市の㈱きものブレインでは「無菌人工給餌周年養蚕」という研究を開始し、3年かけて世界初の人工飼育による繭の量産化を実現しました。優れた健康成分を多く含む「みどり繭」と出会い、健康成分を活かすライフスタイルブランド「絹生活研究所」を立ち上げ、商品の開発に取り組んでいるそうです。現代の技術と研究により、新しい形におけるカイコの活躍が期待されています。

5月17日（土）、この繭を使った「マユビトづくりワークショップ」を情報館で開催します（NPO法人越後妻有里山協働機構）。「マユビト」とは、養蚕の記憶を語り継ぐ作品として2006年の大地の芸術祭でオープンした「繭の家―養蚕プロジェクト―」（古巻和芳＋夜間工房）から誕生したキャラクターグッズです。かつて養蚕が盛んだった蓬平集落でお母さんたちがひとつひとつ丁寧に手作りする多種多様な「マユビト」は、細かいキャラクター設定が人気となり、新たな「越後妻有の特産品」となっています。ワークショップでは、自分だけのオリジナル「マユビト」を作ることができます。子どもから大人まで、楽しみながら伝統の産業に触れてみませんか。　（小堺）

【参考文献】
『カイコ まゆからまゆまで』岸田功／著、あかね書房、1992
『自然の中の人間シリーズ 昆虫と人間編4 カイコでつくる新産業』木内信／著、パステル／絵、農山漁村文化協会、1998
『蚕 絹糸を吐く虫と日本人』畑中章宏／著、晶文社、2015

編集・発行／十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム
〒948-0072　十日町市西本町2丁目1番地1　TEL／025-750-5100　FAX／025-750-5103
「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にＮＰＯ法人となりました。
ホームページ　Facebook　おまちしています

5月のテーマ図書

■大阪を知ろう

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、４月13日から10月13日まで開催している「EXPO 2025 大阪・関西万博」。訪れる予定の方もいらっしゃることでしょう。

話題の大阪や関西の歴史や風土、文化を知ることができる本を集めました。場所は２階一般図書コーナーです。万博を観に行く人も行かない人も、いちど手に取ってご覧いただければ幸いです。

■生誕80年・没後10年　車谷長吉

2025年は、小説家、エッセイストの車谷長吉（くるまたに・ちょうきつ、1945-2015）の生誕80年、没後10年にあたります。

車谷は1945（昭和20）年、兵庫県飾磨市（現・姫路市飾磨区）生まれ。本名、車谷嘉彦（よしひこ）。慶應義塾大学文学部卒業後、広告代理店、現代評論社など、会社員生活のかたわら私小説を書き始めます。

1992（平成４）年、20年にわたって書き継いだ６篇を収録した『鹽壷の匙』（新潮社）が吉本隆明、江藤淳から絶賛され、芸術選奨文部大臣新人賞と三島由紀夫賞を受賞。初の長編『赤目四十八瀧心中未遂』（文藝春秋）は98（同10）年に第119回直木賞を受賞し、のちに映画化もされました。他の作品に『漂流物』（新潮社）、『金輪際』（文藝春秋）、『白痴群』（新潮社、のち『武蔵丸』と改題）。『贋世捨人』（新潮社）、『灘の男』（文藝春秋）など。『文士の魂』（新潮社）、『文士の生魑魅』（同）、『銭金について』（朝日新聞社）、『世界一周恐怖航海記』（文藝春秋）などのエッセイも多数あります。

■児童向け

おでかけしましょ♪

『もぐちゃんのおさんぽ』、『おかずたちのおでかけ』など、おでかけが楽しみになる本を紹介します。

とっておきの１冊

『ぎょうざがいなくなりさがしています』、『ぼくはいったいどこにいるんだ』など、昔から読まれている名作や話題の受賞作などを紹介します。

■一般向け

家族

『家族の哲学』、『ファミリーヒストリー』など、さまざまな家族のかたちを考える本を紹介します。

ちょっとそこまで

『自転車に乗って』、『るるぶ日本遺産』、『ほんほん本の旅あるき』など、思わずお出かけしたくなるような本を紹介します。

新着地域資料

NEW

『くま　ひとをたすける』

山崎敬子／文、スズキテツコ／絵
南魚沼市文化スポーツ振興公社、2025.3

鈴木牧之記念館（南魚沼市塩沢）の開館35周年を記念し、『北越雪譜』のなかから「熊人を助」を題材にした絵本『くま　ひとをたすける』が出版されました。絵はイラストレーターのスズキテツコさん、文は玉川大学などで日本民俗学論を担当する山崎敬子さんが担当しています。

「熊人を助（たすく）」は、旧暦２月に山でクマの穴に落ちた男がクマに助けられ、無事に村へと帰る物語。牧之が若いころに、滞在した妻有荘（現在の十日町市、津南町）で聞いた話です。男性とクマの心温まる交流を、優しいタッチでわかりやすく伝えてくれる絵本です。

スタッフによる日々の声をお伝えします

ねえ、きいて　その56

春になると、町なかでツバメが飛びまわる姿を見かけます。松代分室のある松代支所にもたくさんのツバメがやってきて、せわしなく鳴きながら飛びまわっては子育てにいそしんでいます。

ツバメは毎年ほぼ同じ場所で子育てをするそうです。私の家にもやってきます。が、天敵のヘビに卵やヒナを食べられては失敗に終わっています。毎年同じ目にあっています。いくら同じ場所に巣をかける習性があったとしても、天敵にやられた場所ではやめた方がいいと思うのですが、何度もやってきては挑戦しています。そんなあきらめない精神がすごい、自分もそうありたいと思いつつ、あきらめも時には肝心なのじゃないかと思いながら、我が家にやってくるツバメを眺めています。

いつか子育てが成功する日が来るのかなぁ。今年は成功するといいなぁ。（若井）

雑誌スポンサーになりませんか？

雑誌スポンサーとは、企業や団体から雑誌の年間費用を負担していただく制度です。スポンサーとなった雑誌の新刊カバー、書架などには、企業や団体名、広告を掲載することができます。雑誌のジャンルにより対象を選ぶこともできます。情報館で活動をPRしてみませんか？

新しくスポンサーになっていただける企業・団体を募集中です。詳しくは十日町情報館（025-750-5100）までお問い合わせください。

本のちから(14)

子ども読書活動推進コーディネーター
林　篤子

新年度が始まると、新入社員研修やビジネスマナー研修が行われる企業が多いですよね。マナーというと堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、家庭、学校、職場など、ふだんの生活においてとても大切なことだと思います。

今回紹介する絵本です。

『ごめんなさい！だいじょうぶ！』
ルイス・スロボドキン／さく、こみやゆう／やく
出版ワークス

「ごめんなさい」を言えない４歳の男の子、ウィリー・ホワイトくんは、良い子ではありませんでした。けれど、まわりには礼儀正しくて親切な人ばかり。ある日、木に登っているところをおまわりさんから注意されますが、ウィリーくんは「ごめんなさい」が言えません。そこでおまわりさんから、「ごめんなさい」というと、相手は「だいじょうぶだよ」と言ってくれて、お互いが良い気持ちになることを教わります。やがてまわりを気づかい、「ごめんなさい」を言えるようになったウィリーくんは、まわりの人たちを笑顔にするだけでなく、自身も明るくはつらつとした性格に変わっていきます。

あなたは「ごめんなさい」を言えていますか？ また「ごめんなさい」を言えない人に対しても、親切に接することができますか？ 目の前の人に対する挨拶の仕方や礼儀正しい姿勢、弱い立場の人に対する大人のふるまいを、子どもたちはよく見ています。そしてお手本にしています。

当たり前のことを当たり前にできることの尊さと素晴らしさに、改めて気づかせてくれる絵本です。

5月18(日)は家読(うちどく)の日
「家読（うちどく）」は「家庭読書」の略で、「家族ふれあい読書」の意味です。毎月第３日曜日は家族で読書を楽しみましょう。

『くまとやまねこ』

スタッフのおすすめ本
（齋藤）

湯本香樹実／ぶん　酒井駒子／え　河出書房新社（絵本 Eサ）

ある朝、くまは泣いていました。なかよしのことりが亡くなってしまったのです。きのうの朝には話をしていたばかりなのに。悲しみは誰にもわかってもらえません。くまは、くらく、しめきった部屋に閉じこもってしまいました。

ある日、草のにおいに誘われて久しぶりに外に出て、みなれないやまねこと出会います。「きみとことりのために、一曲えんそうさせてくれよ」とやまねこが奏でるバイオリンを聴くうちに、くまは、ことりと過ごした楽しみ、喜びを、なにもかもぜんぶ思い出したのでした。

大切な存在を失うことの絶望とそこからの再生の希望を、『夏の庭』の湯本香樹実さんの文章と酒井駒子さんの素晴らしい絵で描いた絵本です。第１回MOE絵本屋さん大賞2008第１位、第40回講談社出版文化賞絵本賞受賞。

新着資料紹介3月21日～4月20日分

【一般図書】

●『ほどよく孤独に生きてみる』藤井英子／著　サンマーク出版（生き方　159フ）●『昭和100年地図帳』平凡社／編　平凡社（歴史地理　210.7シ）●『笹餅おばあちゃんの手でつくる暮らし』桑田ミサオ／著　扶桑社（中里　590ク）●『アイラップで簡単レシピ　お役立ち防災編』島本美由紀／著　Gakken（松之山　596ア）●『タクトは踊る』中丸美繪／著　文藝春秋（芸術　762オ）●『記念日』青山七恵／著　集英社（日文　913.6ア）●『天までのぼれ』中脇初枝／著　ポプラ社（川西　913.6ナ）●『織部の妻』諸田玲子／著　KADOKAWA（日文　913.6モ）●『百一歳。終着駅のその先へ』佐藤愛子／著　中央公論新社（日文　914.6サ）●『不便なコンビニ2』キムホヨン／著　小学館（外文　929キ）

【児童図書】

●『きもちをととのえる10のまほう』スワプナ・ハドウ／文　河出書房新社（児童一般　141ハ）●『スマイルカットでみんな笑顔に！』別司芳子／文　佼成出版社（児童一般　595ベ）●『モンスター・ホテルでおにごっこ』柏葉幸子／作　小峰書店（児童日文　913カ）●『十年屋　８　黄昏時のお客様』廣嶋　玲子／作　静山社（児童日文　913ヒ）●『はるだよこんにち、わっ』海野あした／作・絵　ニコモ（松代赤絵　Eウ）●『パパさんぽ』きくちちき／作　文溪堂（川西児童　Eキ）●『ぎゅうぎゅうさるかぞく』つちだのぶこ／絵　鈴木出版（松之山児童　Eツ）●『だいぶつさまかぜをひく』中川学／え　アリス館（中里児童　Eナ）●『おすしのおうさま』山本祐司／さく　ほるぷ出版（絵本　Eヤ）

【地域資料】

●『瞳きらきら　にこにこ笑顔』十日町市立下条小学校　創立150周年記念事業実行委員会（地域　T376ヒ）

蔵書点検
休館日のお知らせ
6月9日(月)～16日(月)

蔵書点検は、情報館・分室に所蔵する資料の一斉点検です。約26万点の全資料を確認し、行方不明の資料を探す、蔵書構成を見直すなどの大切な作業を行います。休館中はご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

●休館中の返却は、情報館、川西・松代・松之山分室ではブックポストをご利用ください。CD・DVD・ビデオや大型絵本、相互貸借資料は、休館明けの6月17日(火)以降にカウンターでお返しください。それ以外の分室では、各公民館の窓口にお返しください。

2025
第67回
4月23日(水)～5月12日(月)
こどもの読書週間
標語「あいことばは ヒ・ラ・ケ・ホ・ン！」

※5月12日(月)は休館日です

■じょうほうかんで ヒ・ラ・ケ・ホ・ン！

本を借りるとガシャポンがまわせます。
なにがはいっているのかな？

日　時／４月23日(水)～５月11日(日)
場　所／１階児童コーナー
川西分室、松代分室

■マユビトづくりワークショップ

「越後妻有　大地の芸術祭」による出張ワークショップ。カイコから育てた本物の繭玉を使い、自分だけのオリジナル「マユビト」を作ります。

日　時／５月17日(土)
午前10時～午後３時
※時間中にいつでもお越しください。
場　所／２階インターネットコーナーとなり
参加費／500円（１体）
対　象／どなたでも（申込み不要）

■情報館の活動をふりかえる展 2024

昨年度の活動をパネル展示でふり返ります。

日　時／４月29(火)
～５月25日(日)
会　場／２階ギャラリー
☆クイズに答えてプレゼントをゲットしよう！

今年度から日曜昼間に開催！

第98回名作読書講座

『舟を編む』三浦しをん／著（光文社）

出版社の辞書編集部に移動になった主人公の馬締は、新しく刊行する辞書『大渡海』の編集を始めます。個性的すぎる仲間たち、問題が山積みの編集部、ままならぬ恋…。愛すべき変人たちが恋に仕事に右往左往するなか、『大渡海』は果たして無事に完成するのでしょうか？
2012年本屋大賞受賞作。

日　程／５月25日(日)
午後２時～３時15分
会　場／１階第１集会室　　対　象／中学生以上
講　師／庭野三省さん　　定　員／25人（申込み不要）

５月のおはなし会

◆情報館　　**（）内は対象**

３日(土)・10日(土)・31日(土)
／おはなしぴよぴよ（乳幼児）
17日(土)／読み聞かせの会 どんぐり
（幼児～小学校低学年）
24日(土)／おはなし「たまてばこ」
（乳幼児）

◆川西分室
17日(土)／おはなしの会「ふきのとう」
（乳幼児～小学校3年生くらい）

◆松代分室
10日(土)／おはなしたんぽぽ（幼児～小学校低学年）

その他の催し

●身体障がい者福祉センター ふれあい作品展

日　時／５月28日(水)～６月４日(水)
午前９時～午後７時
※４日は午後２時まで
会　場／２階ギャラリー　入場料／無料

資料保護のお願い

本やCD・DVDなどは室内と屋外の温度差により結露し、故障や劣化につながるおそれがあります。また雨や雪で濡れた本は、利用ができなくなる場合もあります。屋外での持ち運びには、バッグや袋に入れるなどの保護をお願いします。

５月の開館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

開館時間・休館日

開館時間　午前9時～午後7時
休 館 日　第2・第4月曜日（当分の間）
特別整理期間、年末年始（12/29～1/3）

十日町情報館
〒948-0072 西本町二丁目１-１
電話／025-750-5100　FAX／025-750-5103